

2020 Spring Issue

Cyclism echo

シクリスムエコー

No.231

梶原悠未

望みが覚悟に
変わるとき

[巻頭特集]

2020 UCIトラック世界選手権

梶原が金、
脇本が銀メダルを
獲得！

日本代表
東京五輪へ向けた
成果と課題





勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

CONTENTS No.231

Cyclism echo シクリズムエコー



〔巻頭特集〕2020 UCIトラック世界選手権

梶原が金、脇本が銀メダルを獲得！ 日本代表 東京五輪へ向けた成果と課題

06

梶原悠未、
望みが覚悟に変わるとき
女子オムニアム、日本史上初のアルカンシェル

16

〔BMXフリースタイル・パーク ワールドカップ〕
2019ワールドカップ年間王者！
中村輪夢がたどった軌跡と目指す未来とは？

09

〔女子短距離〕
ふるいにかけられる
“戦う意志”

18

注目のブランド〔デサント〕
世界で戦う最先端エアロスーツを供給
確かなノウハウを積み上げ、
“一番速い”ウェアを追求する

10

脇本雄太がケイリン種目で銀メダルを獲得
男子短距離チーム、
躍動と落胆

21

Behind The Scenes
自転車界を支えるプロフェッショナル
トラック短距離日本代表通訳 アリス・ボナミさん

14

オムニアム11位、
チームパーシュート日本記録樹立
男子中距離チーム
進化の過程、実感する差

24

種目別競技情報
ROAD (P.24-25), TRACK (P.25), BMX RACING (P.26)
BMX FREESTYLE (P.27), MOUNTAIN BIKE (P.28)
CYCLO CROSS (P.29), TRIAL (P.30), INDOOR (P.30)
PARA CYCLING (P.31)

15

〔HPCJC本格活動中〕
ミゲル・トーレスディレクターに聞く
最高のトレーニング環境が
速さを生む



私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

公益財団法人 日本自転車競技連盟広報誌 シクリズムエコー No.231

2020年5月発行

発行・編集／公益財団法人 日本自転車競技連盟
発行人／佐久間重光
編集事務局／公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5F
TEL.03-6277-2690 FAX.03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

編集 猪俣健一
岩崎電太
田中苑子
吉本 司
デザイン 株式会社ラジアン
表紙撮影 岩崎電太

※定期購読をご希望の方は編集事務局までお問い合わせください。
この資料および〇〇の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業
資金の補助を受けたものです。©(公財)日本自転車競技連盟2020本誌掲載の写真、
イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。

本誌への寄稿またはご意見、ご感想等を編集事務局までお寄せください。



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<https://jka-cycle.jp>

2020 TRACK CYCLING WORLD CHAMPIONSHIPS

2月26日から3月1日にかけてドイツ・ベルリンにて「2020UCIトラック世界選手権大会」が開催された。
これまでブノワ・ベトゥーコーチ指揮の元、着実に進化を遂げてきた日本トラックナショナルチーム、
この世界選手権は最終目標とする東京五輪に向けて出場枠の獲得はもちろんのこと、
代表選手たちは自らの出場を懸けた極めて重要な大会である。
大きな重圧がかかるなか、日本チームは梶原悠未がオムニアム種目で日本人女子選手初となる
アルカンシェルを纏い、男子短距離では脇本雄太がケイリン種目で銀メダルを獲得して躍動を果たした。
その一方で予想を下回る結果となり課題を残した種目もあった。

〔巻頭特集〕 2020 UCIトラック世界選手権

梶原が金、 脇本が銀メダルを獲得！

日本代表 東京五輪へ向けた成果と課題

協力 *More***CADENCE** [JCF公認自転車競技WEBサイト]
morecadence.jp



レース前、集中を見せる梶原。勝つためのレースプランはしっかりと頭の中にある



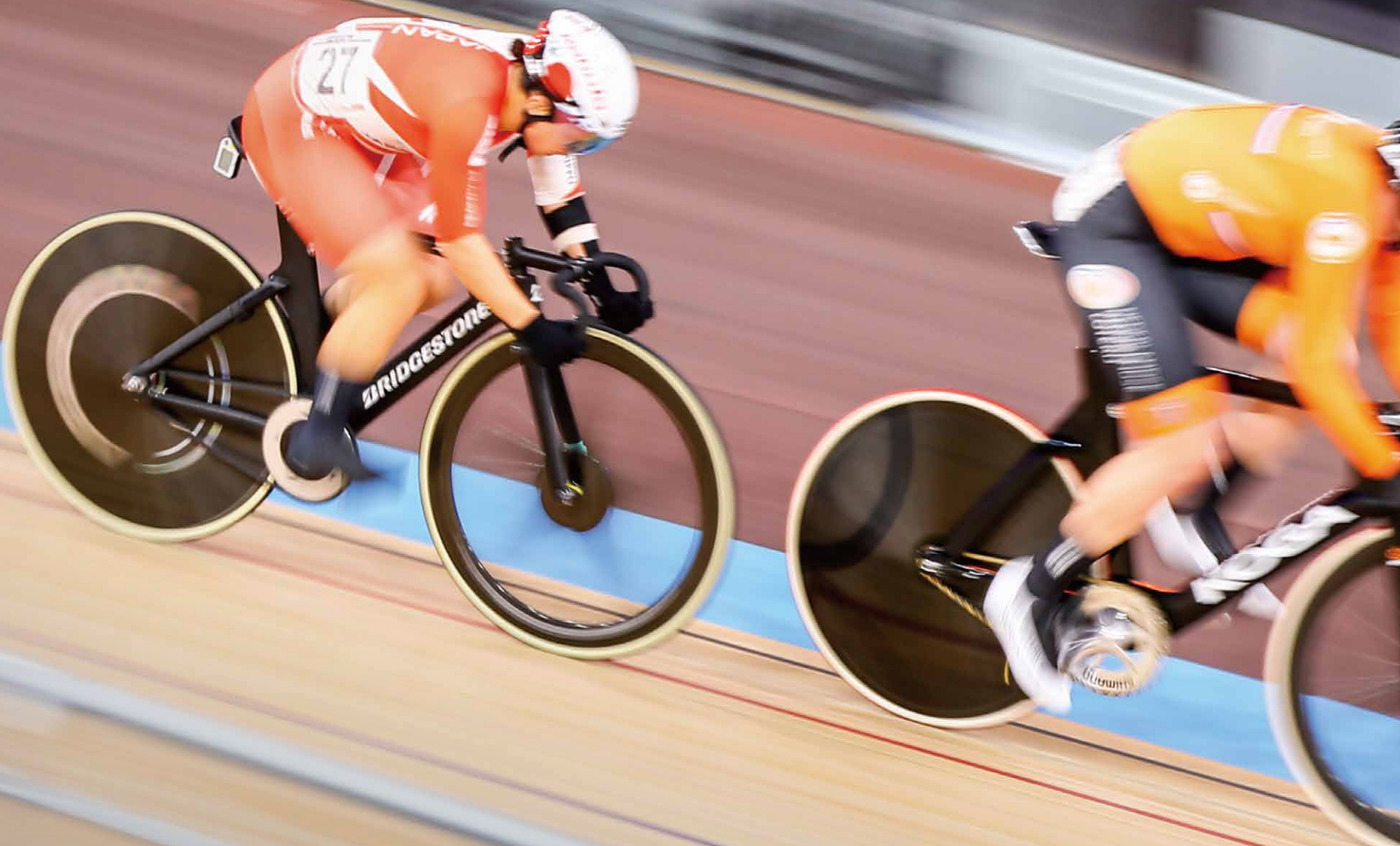
優勝候補としてライバルにマークされるものの、冷静な走りで頂点を極めた

梶原悠未、 望みが覚悟に変わるとき

女子オムニウム、日本史上初のアルカンシェル

2月26日～3月1日、ドイツ・ベルリンにて行われたトラック世界選手権。大会3日目の女子オムニウムで梶原悠未がアルカンシェルに袖を通した。ただの望みで終わらない。努力に裏付けされた覚悟が彼女にはある。

text : 滝沢佳奈子(Cycle Sports) photo : More CADENCE



アルカンシェルを携え 東京五輪へ挑む覚悟

世界一の称号、そんなの誰だって欲しいに決まっている。世界選手権で勝利すれば1年間、世界一の称号が目に見えて分かるアルカンシェルのジャージを身に付けられる。じゃあその称号を手にするために逆算をして計画立てて、努力を続けられる人はどれだけいるだろうか。梶原悠未はそれを完璧に、地道に積み上げてきた。しかもこれはまだ通過点でしかない――。

世界の強豪たちが顔を揃えるのは今シーズンこの世界選手権が初めて。誰が先手を

取るか、どんな展開になるかは未知だった。でもワールドカップのオムニウムで2勝を挙げた梶原の強さなら、絶対にアルカンシェルを携えて東京オリンピックを走ってくれる。そんな期待が寄せられていた。

「自分がそう思っている、周りの人から言われるとより一層気持ちが高まるものになります。覚悟がつきます。そういう風に周りの方々が期待してくれている、それが最高にかっこいい私の在り方だというのが分かったので、絶対アルカンシェル取ってオリンピック走らなくちゃと、とても強い気持ちで戦えました」

望むものを獲得すると公言することで責任感が生まれ、周りがそれを認識し、期待の言葉をかける。そうすると自身で発した言葉

がまた自分の元へと返ってくる。そうやってさまざまな人を介して望みはさらに強く、覚悟へと変貌を遂げていた。

オムニウムという競技は、1人が1日に4つの種目をこなし、その総合ポイントを争うもの。体力はもちろん、戦略、スピードなどが複合的に求められる。梶原はこれまでに全ての面で必要な要素を洗い出し、磨き上げてきた。

第1、2種目ではアドバンテージを握った。第3種目のエリミネーションでは左腕をひどく負傷する落車もあった。それでも最終種目を首位発進した梶原は、危なげなく着実にポイントを取って差を広げ、2位の選手を徹底マークしつつ、残り周回を刻み、優勝の2文字をたぐり寄せた。



2位L・パテルノステル、3位D・ピクリクを従えてボディウムの頂点に立った梶原

左／エリミネーションの落車でこの種目を3位で終えるも、総合ポイントでは首位をキープして最終種目のポイントレースへとつなげた
右／両親の大きなサポートを受けて競技を続ける梶原。アルカンシェルとともに祝う

目指すは アルカンシェルと 五輪の連覇

梶原の掲げる夢は、オリンピックでの金メダル獲得。東京オリンピックを前にしたこの世界選手権で大きな一歩を踏み出したことになる。今回の勝利で、もちろんうれしさを爆発させていたが、彼女にはすでに次の目標が生まれていた。

「世界チャンピオンになる選手って、一度じゃなく何度もとっている選手が多いと思うので、自分もその選手たちに続けるようにこれを皮切りに連覇していきたいです。今回世界選で目標が一つクリアできたので、自信を持ってより一層高いレベルでトレーニングに努めて、東京オリンピックでも必ず金メダルを獲りたいと思います」

また、東京オリンピックは梶原にとって夢の舞台であり、かつ自国開催という競技人生の中でまたとない機会である。もしも東

京オリンピックで金メダルという何にも代えがたい彼女の夢を達成できたならば、その後のモチベーションは一体何に向けられるのだろうか。

「自国開催のオリンピックをベストな年齢、ましてや自分が仕上がっていて、世界チャンピオンとして挑めるっていうのは本当に貴重な経験で、これ以上ないチャンスだと思います。確実に自分のものにしたいですし、そこに向けてしっかりピーキングができて、それが達成できたとき、絶対、今大会以上に達成感があると思うんです。だからその後はしっかり休んで、今度はオリンピックで連覇を目標にやっていきたいなと思います。」

きっと勝ち続けるっていうのは本当に難しいと思います。でも目指している過程でもっともっと精神力・人間力が強くなって、確立されていくと思います。それを達成できるメンタルを備えて、世界で敵なしの選手になりたいです」

梶原は、既に日本の自転車界でも屈指のメンタルの強さを備えている選手と言って

いいはずだ。しかし、決して最初から強かったわけではない。一つひとつの課題に気がつき、真剣に向き合ってきたからこそできた強さなのだ。

「課題を一つひとつクリアにしていくなためプロセスを考えて、それに真剣に取り組むことでどんどん課題は達成できると思いますし、信じて疑わないでやれば、経験になって、成功体験につながる。自分自身でそうなることを分かっている、自分のことを本当に心の底からもっと信じられるようになります。スポーツの力ってすごいと思います。選手自身もそういう大きな目標に向かって、強化していくことで人間として成長させてもらえますし、そういう姿や結果を出すことで多くの方々に夢や希望を与えられる。今度は自分が夢や希望、感動を与えられる選手になりたいです」

梶原自身もそうやって夢を志した。世界中で猛威を振るう新型コロナウィルスの影響により、東京オリンピックは来年に延期が決まった。それでも、梶原は思い描く姿に近づくべく、努力を続けるのだ。

[女子短距離]

ふるいにかけられる“戦う意志”

女子短距離勢はスプリント、ケイリンともに上位入賞ならず。
獲得できた五輪出場枠は1枠のみと大いに苦戦した世界選手権となった。

text : 滝沢佳奈子(Cycle Sports) photo : More CADENCE



200mタイムトライアルで日本記録を更新して期待された小林だが、もてる力を完全に発揮するには至らなかった

今回の世界選手権で女子短距離勢は、ケイリンとスプリントに小林優香と太田りゆが出場。大会2日目に行われた女子スプリント予選の200mタイムトライアルでは、小林が自身のもつ日本記録を上書きし好発進。太田とともに予選を通過するが、1／16決勝で太田は敗退。1／8決勝で小林は、一瞬の隙をつかれて先行され、そのまま追いつくことができずに敗北した。

小林は、「予選のタイムは新しい助走になってから初めての自己ベストでした。いい戦闘モードで戦えたので、1／8で負けたのは悔いが残ります。ケイリンにつなげて、しっかりこの悔しさをばん回できたら」と話した。

大会最終日に行われた女子ケイリンでは、1回戦で2人とも勝ち上がることができず、敗者復活戦に回る。しかし、両者ともに勝ちに行くための強い意志が見える走りを披露できずに敗退が決まった。

「ケイリンでもスプリントでも男子が見本となる戦いを見せてくれました。女子は2人ともそれをインスピレーションにつなげる

ことができなかった。唯一言えることは、まだやるべきことがたくさんあるし、環境を変えないといけない」

ブノワ・ベトゥヘッドコーチはこう話し、短距離女子はケイリン&スプリント1枠のみの

獲得となり、多くの課題が残る大会となった。戦える強さは持っているはずだ。気持ちで負けてしまえばその強さを発揮する機会すら得られない。東京の舞台まで残された課題と向き合っていく。



予選通過は果たしたが1／16で敗退した太田。精神面、走力ともに課題を残すレースとなった



ラブレイセンにわずかに及ばなかった脇本。今後も世界選手権での金メダルに向けて挑戦を続ける

チームスプリントの 出場枠を逃す誤算

2年間にわたるオリンピック出場枠争い、そして国内での代表争いの最終戦となった世界選手権が、ドイツ・ベルリンの地で行われた。男子短距離メンバーからの出場は脇本雄太、新田祐大、河端朋之、深谷知広、そして雨谷一樹。5人の軌跡を振り返る。チームスプリント、ケイリン、スプリントの3種目でオリンピックの出場枠を得るために大会に臨んだ。

まず大会初日に行われたチームスプリント。今シーズン終盤、ワールドカップ2連覇を含むすばらしい結果を残して大会前のオリンピックランキングを7位にまで上げた日本(8位までが出場枠を獲得する)。だが、世界選手権でのメダル獲得も視野に入っていた日本チームは、まさかの予選敗退となる。その結果、大会後のオリンピックランキングを9位にまで落とし、最後の最後でオリンピックの出場枠を逃す形となってしまった。最後に払った代償は大きく、特に個人種目に出場をしていないチームの第1走、雨谷一樹はここでオリンピック出場への夢を絶たれる結果となった。

男子短距離チーム、 躍動と落胆

脇本雄太がケイリン種目で
銀メダルを獲得

世界選で示したトップクラスの実力。 五輪でのメダルは、ここからの積み上げが鍵となる

梶原悠未の活躍に続いて、男子短距離チーム陣も結果を残した。
ケイリンでは脇本雄太が日本チーム3年連続となる銀メダル。
スプリントでは予選の200mタイムトライアルで新田祐大が日本記録を更新。
本戦では新田、深谷知広ともにメダルに手は届かなかったものの世界トップレベルに達しつつある。

text : 井田瑞樹 photo : More CADENCE



今回の世界選での脇本の活躍により、ケイリン種目3年連続メダル獲得となった日本チーム。プロワコーチの強化が確実に結果に結びついている

得意の先行を貫き得た
世界2位と
五輪代表選考のリード

一方ケイリンではリオデジャネイロオリンピック出場経験をもち、2019、2020年とアジア選手権を連覇した脇本雄太が躍進した。ケイリンに出場したのは日本が誇るプロ競輪選手の3人。前回大会の銀メダリストでチームスプリントからのリベンジに挑む新田祐大、2018年の銀メダリストの河端朋之、そして前述の脇本雄太。日本勢は全員が準々決勝まで勝ち上がり、既にこの種目でオリンピックの出場枠獲得を確実にさせていることから「ここで誰が結果を出してオリンピックで戦うのか」という国内選考に焦点が絞られた。短距離の国

内選考は2020世界選手権の結果が大きなアピール材料になるため、ここできかに良い結果を出すか、各選手がいつも以上の緊張感に包まれた。レース前、ブノワ・ベトゥ短距離ヘッドコーチは「誰もがメダルをとれる実力がある」と語っていたが、勝負の世界は甘くなかった。さらに言及するならば、ケイリンはたとえ実力があっても展開に左右されて勝ち上がれないこともある種目だ。

準々決勝、まずは日本の3人の一角を担う、2018年の銀メダリストの河端が勝ち上がれず敗退してしまう。残るは脇本と新田だが、新田は準決勝を勝ち上がることができず。過去の世界選手権で実績を残してきた新田と河端の2人の実力者は勝ち上がれず、オリンピックが迫る最高レベルの舞台で決勝進出を果たしたのは脇本雄太だけとなった。

脇本は得意の先行で勝ち上がり、迎えた決勝。再び自分の得意な戦術「先行」で金メダルを狙いにいった。しかし世界チャンピオンとなったハリー・ラブレイセン（オランダ）が脇本を上回る走りを見せる。レース後に「脇本を準決勝で見たので、先に仕掛けたかった」。そう口から漏らしたラブレイセンの言葉、そこからは脇本に対し脅威を感じていたことがわかる。最終的にラブレイセンを捕らえることができずに脇本は2着でフィニッシュ。自身初となる世界選手権でのメダル獲得、そしてチームには3年連続となる男子ケイリンの銀メダルをもたらした。2018、2019、そして2020年と3大会連続で「同じ結果」を残した3選手。力が拮抗するなかで東京オリンピック日本代表の座を射止めるのは誰か、いよいよ注目の国内選考はクライマックスを迎える。



上／脇本を警戒して先行するラブレイセン。しかし脇本は冷静に対応して離れず最後のスプリントに懸けたのだが……

右下／メダルが期待された日本のエース、新田は力を出し切れず決勝に進めず

左下／準決勝に進出できず、悔しさを滲ませる河端。2018年世界選ケイリンの銀メダリスト



200mタイムトライアルで日本新記録を更新した新田。着実に走力は伸びているだけに、スプリント本戦で躍進する可能性は大いにある



準々決勝では銅メダルのM・アワンに及ばなかったものの、2回戦では元世界王者のドミトリエフに勝利し、成長をみせた深谷



チームスプリントの予選敗退は、選手、関係者ともに予想していなかっただろう。アテネ五輪以来のこの種目におけるメダル獲得の希望が消えた

世界トップが
見えてきた
スプリント種目

男子スプリント。今シーズンのワールドカップで出場すれば必ず表彰台に上がってきた深谷知広、そしてワールドカップ第4戦で自身初となるスプリントでの表彰台に上がった新田祐大の2人が挑んだ。結果は新田が5位、深谷が8位と、あと一歩で表彰台

という戦いを見せた。新田はスプリント予選の200mタイムトライアルで日本記録を更新する9秒562をマーク。それまでの日本記録をおよそ半秒上回るタイムで自身の力を証明した。その新田に予選タイムは劣ったものの、2回戦では2017年のこの種目の世界タイトルを獲ったデニス・ドミトリエフ（ロシア）を打ち破るステップアップを果たした深谷。両者ともに準々決勝を勝ち抜くことはできなかったものの、日本のレベルが世界トップへ近づいていることを実感させる好成績を残した。

オリンピック本番では男子ケイリンは金メダル獲得を狙える種目。自国開催のオリンピックというプレッシャーを跳ね除けて、選ばれた選手が表彰台に乗るその瞬間を期待したい。男子のスプリントは日本が世界選手権で見た実力をオリンピック本番までどこまで伸ばせるのかがポイントとなる。1年以上先に開催予定となったオリンピック、更に強くなるための時間はまだ“ある”と考えて良いだろう。男子はケイリンもスプリントもメダル獲得に期待が持てる種目だ。

GO AHEAD!

JAPAN NATIONAL CYCLING TEAM OFFICIAL SPONSOR

[f](#) [t](#) [v](#) [i](#) [g](#) [www.ogkkabuto.co.jp](#)



梶原に続きメダルを狙った橋本。11位という結果に終わったが、五輪に向けて手応えは感じている様子だ

オムニアム11位、
チームパーシュート
日本記録樹立

男子中距離チーム 進化の過程、実感する差

これまでオリンピック出場枠獲得に向けて苦戦を強いられてきた男子中距離陣。
世界選手権でしか得られない“感触”を手に入れた。

text : 滝沢佳奈子(Cycle Sports) photo : More CADENCE



ナショナルレコードを更新した日本チーム。一回戦進出は逃したものの大きな自信を得て今後の飛躍が期待される



大会初日、男子チームパーシュートの予選で沢田桂太郎、窪木一茂、今村駿介、近谷涼の4人は、日本記録を約4秒も上書きした3分52秒956というタイムを出したものの、一回戦進出はならず。しかし、元々掲げていた日本新の目標は達成した。

「僕らがやってきたことが間違いじゃないというのが証明できたかな」沢田はそう言って晴れやかな表情を浮かべる。近谷もまた、「チームとしての可能性をすごく見出せています」とい

い感触を得ていた。一方でデンマークは大会中に世界記録を3回更新。いまだ頂点を競う道へは険しく遠い。だが、想定を超え、戦えるという自信を手に入れた。まだまだ進化の

途中なのだ。大会4日目の男子オムニアムに出場した橋本英也は、梶原悠末の金メダル獲得に刺激され、メダルへの意欲をみなぎらせていた。しかし待ち受けていたのは、体感したことのない速さ。ワールドカップでは休めていたシーンでもまったく脚を休められなかった。上位選手は別格の体力を持ち合わせていた。

「オリンピックに向けて、エンジンを積んでいかないと」橋本はつぶやく。ただ悲観はしない。ここで刺激をもらえたことは大きい。橋本はこの世界選で11位という結果により、オリンピック代表選手枠はほぼ内定のはずだ。今回歯が立たなかった相手が東京でまた待ち構えている。「なんかいいですね……ワクワクしてます。勝てない相手じゃないと思うんです」壁は高い。だがその分だけ橋本を奮い立たせてくれる。



[HPCJC本格活動中]

ミゲル・トーレスディレクターに聞く

最高のトレーニング環境が 速さを生む

世界の専門家が集結した強化施設。
選手を支え、競技環境を底上げする。

text:田中苑子 photo:岩崎竜太、Cycle Sports



施設内にはマッサージルームやメカニックルーム、ジムなどを完備。専門スタッフが常駐して1年中、選手にベストな練習環境を提供する

2017年に自転車トラック競技に特化した強化施設「HPCJC(ハイ・パフォーマンス・センター・オブ・ジャパン・サイクリング)」の構想が動き出し、今季は世界選手権優勝など日本代表の著しい躍進に大きく貢献した。

HPCJCの軸はスペイン人ディレクターのトーレス氏。スペイン代表の中距離コーチを経て、UCI直轄の育成機関であるワールドサイクリングセンターのヘッドコーチを務めたのち、HPCJCの立ち上げに加わった。「ブノワの短距離コーチ就任を機にこのプロジェクトが本格始動した。目的は東京五輪に向けたパフォーマンスの向上であり、365日いつでも最善の練習環境を提供することが基本理念」と設立の経緯を説明する。

HPCJCは、選手たちとコーチングチームを中心とし、彼らを取り囲むようにして、サイエンスチーム、メカニックチーム、メディカルチームが力強く支える構図。たとえばサイエンスチームは空力、ポジション、パワーなどさまざまなデータを分析し、選手が速く走

るためのソリューションを見つけ出すことがミッションで、それぞれが他のチームと連携し、一貫した選手強化に取り組む。

このプロジェクトの最終目標は“日本人を育成すること”。それは選手に限らず、選手を強くするスタッフも含む。現在は世界中から専門家が集まるが「東京五輪が終わったときにレガシーとして日本に根付き、その後も多くのメダリストを生み出してほしい」とトーレス氏。未来に向けて多くの可能性をもつプロジェクトだ。



トーレス氏はスペインの大学でスポーツ科学の修士号を取得。才能を見つけ伸ばすタレントパスウェイにとっても興味があると話す36歳



Kドリームスは、JCFのオフィシャル・スポンサーです。
自転車競技を応援しています！

競輪のネット投票サイト

Rakuten
Kドリームス

<https://keirin.kdreams.jp/>

ケイドリ 検索

お問い合わせ デルカカスタマーセンターまで

0570-055-005

または 03-5796-2873

【受付時間】 発売日・レース開催日の12:30~17:30

入会金・年会費無料！

Kドリームス新規入会で！もれなく！

R POINT 1,000 ポイント プレゼント！

UCI BMX FREESTYLE PARK WORLD CUP CHAMPION



2019ワールドカップ年間王者！ 中村輪夢がたどった軌跡と 目指す未来とは？

text:猪俣健一 photo:JBBF、猪俣健一

東京オリンピックで正式種目として初採用されるBMXフリースタイル・パーク。この競技で日本のトップに君臨するのが中村輪夢だ。現在18歳の中村がBMXショップを経営する父の影響でBMXに乗りはじめたのが3歳のとき。5歳から大会に出場し、小学校高学年ではキッズクラスをすべて制覇するなど頭角を現し、中学生でトップカテゴリーにステップアップ。2017年の第1回世界選手権では最年少でファイナリスト

に名を連ね7位、同年の第1回全日本選手権で優勝し、名実ともに日本を代表するライダーへと成長した。昨シーズンはワールドカップの開幕戦広島大会でそれまでのベストリザルトとなる2位表彰台を獲得。続く2戦目のフランス大会でも5位、そして最終戦の中国大会では準決勝をトップで通過。雨で決勝がキャンセルになり、ワールドカップ初優勝を果たした。ポイントランキングでもトップに立ちワールド

カップのシリーズタイトルも獲得した。自身の実力を「調子が良ければ好成績を残せるが、表彰台の常連となるまでには届いていない」と評価する中村。昨年の開幕前には技の難易度を上げるなど取り組んできたという。シーズンを通して好調を維持できたのは、ワールドカップ参戦3年目を迎えて、戦い方に慣れてきたからとも評価する。京都在住の中村は、これまで三重や愛知、また海外へと練習環境を求めてきた

ワールドカップ最終戦中国大会。準決勝をトップで通過し、雨で決勝がキャンセルされそのまま優勝が確定した

が、今年の1月に所属契約を結ぶウイングアーク1stが中村専用のBMXパーク「WingPark1st」を建設。パーク内に設置されたセンサーとカメラでライディングの分析が可能になるなど、世界屈指の練習環境を手に入れた。

東京オリンピック日本代表候補の選考基準でトップを走る中村。オリンピックは1年の延期となってしまったものの、「残念だが、練習時間が増えてさらにポテンシャルを上げられる余地がある」と逆境をポジティブに捉えている。「現在はシーズンの再開も見えないが、やるべきことは大会が決まったところでそこに向けてベストを尽くすだけ」と語る中村。その快進撃はまだ序章に過ぎない。

PROFILE

京都府出身でBMXショップを経営する父、辰司さんの影響で3歳からBMXに乗りはじめ、15年以上のキャリアをもつ。2019年はワールドカップ最終戦で優勝し、年間総合タイトルも獲得した。岡山で開催された全日本選手権では、2度目の全日本タイトルを獲得。インドネシア・ジャカルタで行われたアジア選手権でも優勝し、初代アジアチャンピオンにも輝いた。2002年生まれ、現在18歳。ウイングアーク1st所属



最終戦の優勝によってポイントランキングでもトップに立ち、ワールドカップ年間王者に輝いた



開幕戦の広島大会でワールドカップ初の表彰台となる2位。日の丸を手にし、日本のファンの喝采を浴びた



ワールドカップ最終戦の翌週には世界選手権に出場。決勝に進出し5位の結果を残した



Featured Brand

注目のブランド[デサント] 世界で戦う最先端エアロスーツを供給

トラック競技などの自転車日本代表を支えるウェアブランド「デサント」。
世界のトップ選手とともに限界に挑むスポーツの最前線を歩んできた。
ブランドの歴史や代表ウェア開発にまつわるストーリーを紹介しよう。

広告 ADVERTISING COLUMN

確かなノウハウを積み上げ、 “一番速い”ウェアを追求する

世界王者を生み出す 運命的な巡り合わせ

自転車日本代表チームのウェアパートナー「デサント」。1935年に前身の石本商店が設立され、高性能スキーウェアの先駆者として国際舞台に挑み、あくなき探究心をもって、ほかのスポーツ分野においても瞬く間に世界のトップブランドに成長した。同社の歴史はトップ選手やトップチームへの商品サプライの歴史でもあり、「トップ選手が、最大限のパフォーマンスを発揮できる商品をつくること」を商品開発のベースに、常にモノ作りの限界に挑戦してきた。

自転車競技では、1980年代からツール・ド・フランスに参加する複数のチーム

へウェアを供給する。その中でも最高のハイライトは1987年にデサント製のウェアを着用したステファン・ロッシュがトリブルクラウンを達成。日本人に身近なところでは、競輪選手だった中野浩一氏が世界選手権スプリントで10連覇していた時もデサント製のウェアであり、2020年に日本人女性として初めて世界選手権で優勝した梶原悠未選手もデサント製のウェアで夢のアルカンシェルをつかんだ。

“速さ”を追求して、 幾度も重ね続ける改良

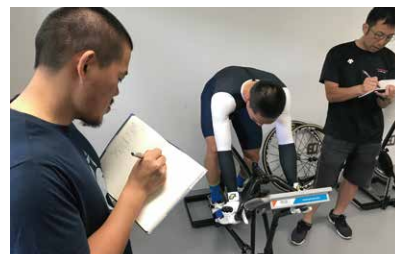
2017年より日本代表チームへのウェア供給を開始する。とくにコンマ1秒

以下のタイムを競うトラック競技チームとは最善に最善を重ね、数えきれないほどの製品改良を繰り返している。現場からのリクエストは「とにかく一番速いウェア」と、とてもシンプル。しかし、それほど難しいものもない。一度に5種類など様々なタイプのサンプルを作成し、風洞実験を年に何回も行う。さらに選手からも個別のリクエストを聞き、1人ずつ違うカスタムウェアを作る。また選手たちの身体はシーズン中にもどんどん大きくなっていくので、ウェアもその度に作り直しが行われている。

さらなる速さを求め、日々限界に挑む主役は選手たち。しかし、彼らを支えるウェアブランドも一切の妥協は許されず、選手たちと気持ちを一つにして戦い続けている。



開発拠点であるDISC大阪では、サンプル作りから性能検証まで迅速にすべての工程が完結する



最先端の技術を集結させ“一番速いウェア”を追求。今回は筑波大学と産学共同で改良を重ね、風洞実験は筑波大学の施設を活用



世界選手権スプリント種目で前代未聞の10連覇。中野浩一氏の快挙を支えたのはデサント製のウェアだった



Design that moves

あなたを動かす、すべてになる。

大谷 翔平





www.pearlizumi.co.jp

facebook.com/pearlizumijp

twitter.com/pearlizumi_jp

instagram.com/pearlizumijapan



今こそ資源の有効利用を

創業118年の歴史
原材料再生のエキスパート
24 時間対応の柔軟な受入体制



<https://www.tokometal.co.jp/>

YOUR LIFE
IS
YOURS

日商エステムグループ
相武 紗季

あなたの街と
未来を変えていく。

日商エステムグループは資産運用型マンション分譲
ファミリーユースから都市型マンション分譲
そして都市型一戸建分譲を
大阪、名古屋、東京の三大都市を中心に全国へと展開。
数多くの実績を重ね、事業エリアを広げ続けています。
そう、あなたのそばにもきっと、
私たちの創造するマンションがあります。

●物件情報続々公開中！

エステムコート 検索

NISSHO ESTEM GROUP
日商エステム・グループ

株式会社 エステムホールディングス
株式会社 日商エステム
株式会社 東京日商エステム

株式会社 沖縄日商エステム
株式会社 エステム住宅販売
株式会社 イー・トラスト

株式会社 エステムプランニング
株式会社 エステム管理サービス
株式会社 リブラブ

株式会社 イーテック
株式会社 エステム保証サービス
株式会社 エステムホーム

Behind The Scenes

自転車界を支えるプロフェッショナル

世界で戦う選手は多くの専門スタッフ、技術者たちに支えられている。
報道からは見えてこない仕事だが、競技には不可欠な存在。
選手を舞台裏から力強く支えるプロフェッショナルたちを紹介していこう。

トラック短距離日本代表通訳

アリス・ボナミさん

外国人コーチと選手のあいだで、
言葉を伝え、心をつなぐ仕事。



2019年1月、トラックワールドカップ最終戦・香港大会にて

text : 田中苑子 photo : 岩崎竜太／田中苑子

「涙も笑いも共にして、 一致団結したチームで頂点に向かいたい」

「遠征や合宿で飛行機にたくさん乗らないといけない。飛行機恐怖症な私にとって、それが一番、この仕事で大変なこと(笑)」

緊張感が漂うトラック競技の現場でも、アリスさんの周りはどこかフワッと空気が和む。日本が好きで、地元フランス・ボルドーの大学で本格的に日本語を学んだ。交換留学を通じて日本のすばらしさにさらに魅了され、大学院を経て日本政府が推し進める「JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)」の国際交流員として5年間、京都府庁で働いた。その後、縁があり「オリンピックに関わるのは一生に一度のこと。さらには自分の第二の母国で開催される大会、魅力的に感じた」と現在の仕事に就く。世界へと挑む日本代表チームでの外国人コーチの通訳としての仕事だ。2017年、フランス人のブノワ氏がトラック短距離日本代表チームのヘッドコーチに就任し、東京五輪へ向けての強力な体制が整う時期だった。

世界の強豪国であるフランス出身なが

ら、意外にも自転車競技はほとんど知らなかった。「本当にゼロから専門用語や競輪特有の言葉を覚えていった。そもそもフランス語でも知らない用語が多かったけど、選手も親切に教えてくれた。いまでも勉強しながらやっている」と専門性が高い仕事ならではの苦労も多い。さらに物事を直接言うフランス人と、間接的に言う日本人、2つの違う文化の間でのスムーズなコミュニケーションにも気をを使う。「直訳ではダメ。フランス語で怒りや厳しく言うときの言葉はそのまま日本語にないので、コーチの気持ちが伝わるように調整しないといけない。あとフランス人なので、皮肉な冗談をよく言うけど、それも直訳では理解が難しいから少し言葉を足して、みんなで一緒に笑えるように伝えるんです」。

真摯に仕事に向き合う姿勢や、明るく朗らかなキャラクターから、すぐにチームには不可欠な存在になった。良いときも悪いときもコーチと選手の気持ちを繋ぎ、チームは家族のような関係になり、その絆がこ

の仕事の大きなやりがいに繋がっている。

「京都にいた頃に“よさこい”をやっていた。大会に向けて一生懸命に練習して、苦しいことも経験して……、でもその結果、大会で大賞を獲ることができた。そのときの達成感は忘れられない。もちろん、それとこれとはレベルが違うこと。でもいまチームは東京五輪の金メダルのために全てを尽くして戦っている。これまで経験した全てのことの頂点が金メダルになるように、東京五輪で素晴らしい達成感を味わえるように、これからも一体感を持って頑張りたい」



互いの性格を理解したうえでブノワコーチの言葉を的確により理解しやすく選手たちに伝える

Daito Trust Construction Co., Ltd.



左から 館正文[大東建託 執行役員 設計統括部長]
渡辺浩嗣[一般社団法人全日本BMX連盟理事長]
泉和宏[大東建託 執行役員 工事統括部長]

大東建託が BMXレースを 支援する理由とは？

2019年よりスタートした全日本BMX連盟と大東建託のパートナーシップ。
単なるスポンサーシップにはとどまらないウィン・ウインの関係性に迫っていく。



館:私が未来のアスリート支援プロジェクトの事務局長を務めていた昨年に全日本BMX連盟さんとのご縁でスポンサー契約を結ばせていただきました。私自身は昨年の最終戦に伺いましたが、大きなジャンプなどの迫力あるレースと大勢の観客が集まるところにBMXレースの盛り上がりを実感しましたね。またそこに貢献できたことも非常にうれしく感じています。そして2020年も引き続きサポートさせていただくことになりました。

渡辺:大東建託さんという強力な味方がついたことで、我々もできることが大きく

広がりました。昨年は世界選手権と同時開催され、5歳から出場できる年齢別のワールドチャレンジ大会の日本代表選手35名に補助金を支給し選手の強化につなげました。また国内大会においてもショーアップされたレースを実施することで、選手のモチベーションが今まで以上に高まったと確信しています。各カテゴリーの優勝者には「だいとくん(大東建託公式マスコット)」のぬいぐるみをプレゼントしましたが、かなり人気でだいとくんを目標に頑張っていた選手もいるほどでした。

泉:今年から館の後を引き継いで私が事務

局長を務めますが、BMXレースには大きな可能性を感じています。子どもから本格的に競技に取り組めるBMXレースだけに、未来のアスリートを支援するチーム大東との親和性が非常に高いですね。

渡辺:子どもたちの参加が非常に多いのがBMXレースの特徴です。そこで昨年の最終戦では、まだ自転車に乗れない年齢の選手が出場するランニングバイク大会をBMXレースと同じ会場で実施する取り組みもしています。東京オリンピック関連で報道も活発になり、BMXレースをやってみいたいという潜在的な需要の高まりを感じて



BMXレースはプロジェクトとの親和性も高い(泉)

います。ただ、どうしても専用コースありきの競技なので、コースを整備していくことが普及における最大の課題ですね。

館:我々のオーナー様は全国にいますし支店も200以上ある。そこで地域貢献の活動をしているが、そのなかでBMXの普及を行っていく方法もある。今後そういうコラボレーションもできますね。大東建託としても昨年からBMXレースに参加させていただいて感じたのが、競技人数が増えていると露出も高まっていく。我々としてもビジネスにつなげていきたい思いも少なからずある。BMXレースは企業イメージとしては大変いいものですし、普及が進むことは同時に大東建託のファンが増えることです。

泉:さらに発展的に考えると自転車を絡めたアパートを展開するなんていうのもいいですね。つまり本業を含めたところにオーバーラップしてくれば、魅力もより高まります。自転車は化石燃料を使わないエコな乗り物ですし、健康にもいい。またレース会場に限られるのであれば、そこを目指せる仕

掛けを大東建託としてもやりたいですね。
館:そういった仕掛けをしていけば、これまでよりも積極的にいろいろな方を巻き込んでいける。全国に300万人の入居者様や9万人近くいるオーナー様、社員も1万人います。JBMXF大東建託シリーズへ興味をもっといただくアピールもしていきます。建築業界ですからコース整備のためのお手伝いも可能です。

渡辺:もともと未来のアスリート支援プロジェクト自体が大東建託さんに関わっているさまざまな方を支援対象としたものですね。単に一企業の関係者とくれないほど大きなところにアピールできることはBMX連盟としても非常に有意義ですね。連盟の広報活動としては、公式ホームページや報道関係へのリリースなどで結果を配信するのももちろんですが、昨年から公式のYouTubeチャンネルもスタートさせました。まだ大会のダイジェスト的なものですが、今年はさらにいろいろな方に面白いと思っていただけるような動画を追加し



観客の多さにも競技のポテンシャルを感じた(館)



若年層の選手を支援できる意味は大きい(渡辺)

ていきます。

泉:やはりBMXレースをはじめとして、競技の主役は選手です。そのなかでスター性がある選手が活躍していくことで、応援していく機運もさらに高まっていきますね。

館:大東建託は女子プロゴルフツアーの「大東建託いい部屋ネットレディス」を毎年開催しています。この大会には私たちだけでなく関連の企業さんもスポンサーとして名を連ねていただいているんです。BMXの大会でも同じようにさまざまなスポンサーを巻き込んで盛り上げていきたいですね。

泉:BMX連盟さんとのパートナーシップによって、我々はBMXレースを応援するリーダーとなることができました。単純に企業PRだけを考えたメジャースポーツだけに注力すればいい。しかし我々は建築業界ですから応援するところともウィン・ウインの関係でスポーツの発展を築き上げていくことにも魅力を感じます。今後もBMX連盟さんと輝かしい未来を構築していきたいですね。

INFORMATION

大東建託未来のアスリート支援プロジェクトとは？

大東建託物件のオーナー様、入居者様、社員、
およびそのご家族を対象として、
情熱をもって夢を追い続ける未来のアスリートを
チーム大東として支援。
2019年からは全日本BMX連盟と
スポンサー契約を結んでいる

<https://team-daito.com/>

2020 JBMXF大東建託シリーズ [JCF公認大会]

8月23日	第1戦	広島大会
9月21日	第2戦	埼玉大会(秩父インターナショナル)
10月25日	第3戦	大阪大会
11月8日	第4戦	茨城大会
11月22日	第5戦	岡山大会



詳しくは [全日本BMX連盟](https://jbmxf.org/) 検索

<https://jbmxf.org/>

全日本BMX連盟公式
YouTubeチャンネル



東京オリンピック会場になる 富士スピードウェイでの全日本選手権

モーターサーキットでの 壮大な日本一決定戦

年に一度の日本一決定戦、第88回全日本選手権ロードレースが、静岡県小山町の富士スピードウェイにて2019年6月27日から30日まで開催された。富士スピードウェイは、東京オリンピック・パラリンピックにてロードレース、TT種目の会場になる予定。国際的な注目も高まるなか、初めて自転車競技の全日本選手権が開催された。TTを含め男女年齢別のカテゴリーで熱戦が繰り広げられたが、大会のメインイベントは最終日の男子エリート・ロードレース。国内外で活躍する152名が日本一の称号をかけて227kmの過酷なレースに挑んだ。あいにくの雨に見舞われ、周回を重ねるごとに多くの選手が脱落。終盤には30名ほどに絞られたなかから最後は3名の先頭集団が形成され、入部正太郎（シマノレーシング）が新城幸也（バーレーン・メリダ）との一騎打ちを制し、涙で初優勝を飾った。



上／モーターサーキットでの圧巻のレース風景

左下／終盤の3名による先頭集団

右下／男子エリート3位は24歳の横塚浩平（チーム右京）



日本の自転車界を牽引する 二大トッププロが参戦！

海外のトップチームで活躍を続ける新城幸也と別府史之（トレック・セガフレード）が出走した。欧州を主戦場に戦う2選手が揃って全日本選手権に参戦するのは2011年大会以来9年ぶり、ファンには嬉しい瞬間だった。別府史之はTTで首位の増田成幸（宇都宮ブリッツェン）から13秒差で3位表彰台と鎖骨骨折明けながら安定した実力を発揮。ロードレースでも序盤から積極的に動き、最後は失速したもの大きな存在感を示して25位。一方、骨盤と肘を骨折する大ケガからの復帰戦となった新城幸也はTTを7位で終え、ロードレースでは最終盤の決定的な3名の逃げに入り圧倒的な力でレースをリード。ゴールスプリントでは敗れたが、誰もがその強さを認めるすばらしい復帰戦だった。



上／アタックを仕掛ける新城幸也。終盤では毎周回、登坂区間でアタックし、集団の振るい落しを図った

下／TTで3位に入賞した別府史之。欧州トップチームに所属15季目、圧巻の走りを披露した



TT全日本王者に輝いた増田成幸。ケガや病気から何度も復活する“不死鳥”が悲願の初優勝



女子エリートは與那嶺恵理（アレ・チボツリーニ）が圧倒的な力でロード、TTともに勝利した



悪天候で走行距離が短縮された男子U23ロードは武山晃輔（チーム右京）がスプリントを制した



日本一から世界への挑戦 入部が掴んだチャンス

新城幸也との緊迫したゴールスプリントを巧みに制し、2カ月前に亡くなった名門フレームビルダーの父へと勝利を捧げた新全日本王者・入部正太郎。その後、2020年より日本チャンピオンとして、最高峰カテゴリーであるUCIワールドチームのNTTプロサイクリングへ移籍する。この勝利をチャンスに代えて、イタリアを拠点に念願だったトッププロとして世界へと挑む。

TRACK

text:田中苑子 photo:若生武則(KEIRIN MAGAZINE)

室内板張りバンク「JKA250」が完成

新バンクで全日本選手権と トラックカップが開催

日本競輪選手養成所内に、日本で2つ目の室内板張りバンク「JKA250」が新設され、改装中の伊豆ベロドロームに代わり、2019年夏にジャバントラックカップやトラック全日本選手権などの公式戦が続けて開催された。ジャバントラックカップⅠ、Ⅱでは世界チャンピオンや大陸チャンピオンが多く出走。日本代表とともに真新しいバンクで熱戦を繰り広げた。



8月のジュニア世界選手権ではポイントレースで内野 聡和〔つやか〕（祐誠高校）が金メダルを獲得



JKA250のこけら落としとなったジャバントラックカップでは、アジアが誇る世界王者リー・ワイジー（香港）らが顔を揃えた



全日本選手権では窪木一茂（プリヂストン）が4km個人追い抜きにて日本記録を更新



岡本隼（愛三工業）が全日本オムニウムで初優勝を飾った。最終種目の逆転だった

BMX RACING

text:猪俣健一 photo:Nico van Dartel,猪俣健一

畠山紗英が女子日本勢初のワールドカップ決勝進出

リオ五輪代表の長迫吉拓も5年ぶりに決勝へ

2019年のワールドカップ、女子の畠山紗英は第8戦のアメリカ・ロックヒル大会で自身初の決勝に進出し8位の成績を残した。畠山にとってロックヒルはジュニア時代に世界選で5位に入った相性のいいコースだ。続く第10戦のアルゼンチン・サンティアゴ大会でも決勝進出を果たした。男子の長迫吉拓は第4戦オランダ・パベンダル大会で決勝に進出し8位。長迫の決勝進出は2013年以来で5年ぶり。両名ともさらなる活躍が期待される。



上／ワールドカップで5年ぶりの決勝進出を果たした長迫吉拓
右／2019シーズン、2度決勝に進出した畠山紗英



上／男子エリートはスタートの混戦を抜け出した中井飛馬が優勝した
右／女子エリートは、後続を大きく引き離れた丹野夏波が制した



中井飛馬と丹野夏波が全日本タイトルを獲得！

2019年7月7日に第36回全日本BMX選手権大会が広島県安芸高田市の土師ダムBMXトラックで開催された。男子エリートは中井飛馬、女子エリートは丹野夏波がそれぞれ優勝した。中井、丹野ともに前年の全日本BMX選手権のジュニアカテゴリーで優勝したライダーで、エリートで初の全日本タイトルを獲得した。男子ジュニアは増田優一、女子ジュニアは酒井亜樹が優勝している。

BMX FREESTYLE

text:猪俣健一 photo:JFBF,Naoki Gaman / The Bloom BMX

パークとフラットランドで日本人選手が大活躍！

世界選手権パークは中村輪夢と大池水杜が日本勢トップ

3回目を迎えるUCI2019アーバン自転車競技世界選手権が中国の成都で開催された。BMXフリースタイル・パーク種目には男女6名の日本選手が出場した。日本勢男子のトップリザルトは、前週に行われたワールドカップで初優勝を果たし好調をキープした中村輪夢の5位。女子は大池水杜が2ランの平均で争われる予選を8位で通過し決勝進出。決勝で得点を伸ばすことができず10位で大会を終えた。



3年目の世界選手権に参戦したフリースタイル・パーク日本代表チーム



上／初めて行われた世界選手権で銅メダル獲得の佐々木元
左／ワールドカップ全勝の片桐光紗季が2位で銀メダルを獲得した

フラットランド世界選手権が中国成都で初開催！片桐光紗季と佐々木元がメダル獲得！

2019年からUCIによる世界選手権がスタートしたBMXフラットランド種目。アーバン世界選手権に組み込まれフリースタイル・パークと同会場の中国・成都で開催された。女子はワールドカップ全戦優勝を達成した片桐光紗季が金メダルを狙うものの惜しくも2位。男子は前週のワールドカップで初優勝した佐々木元が3位に入り銅メダルを獲得した。



安心と信頼の絆で、
未来に寄り添う。

くらしの保障、相談するなら



●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
どなたでも相談いただけます。
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

20481050113



もっと速く、さらに遠くへ

身を切るような風、照りつける太陽。時には嘲るかのように降りしきる雨。
敵は競争相手だけではない。最大の敵はおのれ自身。
それにうち勝つ者だけが、ゴールの向こうにあるものを手にすることができる。

■ 2020シーズンは、フランス籍UCIプロチーム「NIPPO・デルコ・ワンプロヴァンス」として、
マルセイユを活動拠点に、4名の日本人選手とともに世界ランキングへの挑戦を続けています。

NIPPOは戦うアスリートたちを応援します。

この道の先に
NIPPO

株式会社 NIPPO

本社 東京都中央区京橋1丁目19番11号
TEL (03) 3563-6711
<https://www.nippo-c.co.jp/>

山本幸平が10度目のアジアタイトルを獲得！

タイ北部でのアジア選手権 日本人選手が大活躍

2020年2月1日～5日、MTB日本代表の16名の選手たちは、タイ・チェンライで行われたアジア選手権を戦った。初日のXCR(クロスカントリーリレー)、これまで日本チームは2位という成績が多いが、今年は違った。北林力、今井美穂、川口うらら、松本一成、山本幸平の5名が出場し、前半トップ、中盤では3位をキープ。最終走者山本がトップに立ち2位に大差をつけての勝利となった。

翌日のダウンヒルでは、九島勇気が一時的にトップとなったが、このコースを熟知している地元タイのライダーが表彰台を独占した。3日目の女子U23ではXCRを走った川口が2位、男子U23では優勝候補であった北林が4位となったが、村上功太郎が3位と好走。男子ジュニアではXCR出場の松本が優勝、3位に中島渉。それぞれのレースで表彰台を獲得。

4日目には男女クロスカントリーエリート、女子は苦しい展開となり今井の5位が最高位。男子エリートの山本はスタートから先頭に立ち、2位には平野星矢。日本人2人のバックは3位と2分ほどの差を広げる。最終周回、山本がアタックして独走へ。そのまま日本人のワンツーフィニッシュとなった。山本は10度目のアジア選手権制覇。



最終周回にアタックをかけて2位平野との差を広げる山本



左上／左から村上、松本、中島。表彰台を獲得した彼らの活躍に期待したい 左下／女子U23で2位となった川口、後半に美しい追い上げを見せた 右／念願の優勝を果たしたXCRのメンバーたち。日本選手の層の厚さが証明された

四国初開催の全日本選手権で前田公平が連覇達成

女子は松本璃奈が不調を 跳ね返して連覇を果たす

第25回シクロクロス全日本選手権大会が愛媛県内子町で2019年12月7日、8日の2日間に渡って開催された。全長2.5kmのコースには急登・急降下の激坂やキャンパー、階段などが配置され、ドライコンディションのなかで各クラスのチャンピオンの座が争われた。また、内子町の重要伝統的建造物「内子座」にて前夜祭が行われ、歌舞伎で使用する「迫(せり)」で奈落から登場する演出で有力選手が紹介された。

男子エリートは69人が出走し9周回で争われた。周回を重ねるごとに6名の先頭集団は人数を減らし、最後は前年チャンピオンの前田公平(弱虫ペダルサイクリングチーム)と2011～15年チャンピオンの竹之内悠(Toyo Frame)の勝負となり、先にスプリントを仕掛けた竹之内を最後に前田が交わして2連覇を達成、両手を空に突き上げた。19人が出走した女子エリートでは、「自分の得意なコースだと思った」と語る前年チャンピオンの松本璃奈(TEAM SCOTT Japan)が1周目に先頭に出ると毎周回後続からリードを奪うことに成功。マキノ、野辺山と悔しい思いをしたと語る松本はU23年齢域ながら全日本のタイトル連覇を達成した。



スプリントを制して前田公平が連覇を達成した



左上／チャンピオン経験者による超高速レースが展開された男子エリート 右上／不調を跳ね返して独走勝利した松本璃奈 左下／肩のゼッケンを高く掲げてフィニッシュする織田聖 右下／芝居小屋「内子座」で前夜祭が行われ有力選手が紹介された



翼は、夢を見る。

勝利を夢見て、ひたすら努力する
アスリートたち。

彼らの頑張り、汗が、涙がスポーツの
魅力となって輝く。

勝敗をこえた感動を、私たちに
与えてくれる。

彼らのさらなる飛躍を願い、
JALはスポーツの夢を応援します。

AEON

中国でのアーバンサイクル世界選手権に出場



日本代表の6選手。アーバンサイクル世界選手権は2019年で3回目の開催



左／男子エリート26に出場した塩崎太夢
右／ホイールサイズの小さい男子エリート20の土屋凌我

決勝進出ならずも 貴重な経験を重ねた

岩や丸太、人工の構造物で作られたコースを走行し、いかにミスなく走行できるかを競うトライアル種目。2019年11月に中国成都にてアーバンサイクル世界選手権が開催され、6名の日本代表選手が出場した。初日の団体種目、獲得合計ポイントを競うチームコンペティションでは日本は310ポイントで7位(優勝したスペインは700ポイント)。その後の個人種目では上位6名が決勝進出となるが、男子ジュニア26で尾又太一が7位、男子ジュニア20で小椋陽が8位、女子エリートでは平野心結が10位、横田華奈が12位、男子エリート26で塩崎太夢が18位、男子エリート20で土屋凌我が14位。決勝進出はならなかったが、国際大会での貴重な経験を重ねた。

INDOOR

text & photo: 木澤佐椰茄／日本室内自転車競技連盟

サイクルサッカー世界選手権Bリーグ2位

個々にベストを尽くし 着実にステップアップ

2019年12月にスイス・バーゼルで行われた室内自転車競技世界選手権に出場し、サイクルサッカーはBリーグ2位。前回敗退したハンガリーに4-1で勝利して全勝で勝ち進んだが、Bリーグ最有力のリヒテンシュタインには1-7で敗退。Aリーグ昇格のためにはさらなる訓練が必要になる。

サイクルフィギュアは中川凱公、芝山耕輔、近藤菜月、國久結希乃が出場した。中川凱公は公式大会初となる100点越えを果たし101.78点をマーク。近藤菜月も練習の成果を発揮しベストを尽くし、國久結希乃は初出場ながらも堂々とした演技だった。またサイクルサッカーの日本人女子選手が世界選手権に初めて帯同し、取材を受けるなど注目を集めた。



左上／強豪ハンガリーに快勝！
右上／サイクルフィギュア男子シングルでは中川凱公が15位。芝山耕輔が18位。



左下／女子シングルは近藤菜月が17位、國久結希乃が24位



サイクルサッカーBリーグ2位で表彰台に立った松田鋼と赤津陸(たちかわCSC)



日本代表チーム。現在正式種目ではない女子サイクルサッカーの選手がスタッフとして帯同した

PARA CYCLING

text: 田中苑子 photo: JPCF、小坂橋彩子

杉浦佳子が世界選手権で表彰台リザルト！ 日本代表、アジア選手権でも大活躍

国際大会で表彰台常連 杉浦佳子が今季も活躍



ディフェンディングチャンピオンとして挑んだロード世界選手権ロードレース。杉浦は最後に惜しくも先行を許してしまったが、笑顔で表彰台に立ち、銀メダルを受け取った



男女ともにアジア王者に輝いたBクラス(タンデム)の個人追い抜き種目



トラックアジア選手権のCクラス個人追い抜きでは男女でワンツーフィニッシュ

通算2回の世界チャンピオンタイトルをもつ杉浦佳子(楽天ソシオビジネス)が世界で活躍を続けている。2019年9月にオランダにて開催されたパラ・ロード世界選手権では、個人TT C3クラスにて銀メダルを獲得。翌々日に開催されたロードレースでも積極的にレースを展開し、最後はラストパートを仕掛けたが、フィニッシュライン手前で交わされ惜しくも2位。同大会ロードレースでは男子C2クラスで川本翔大(大和産業)、男子C3クラスで藤田征樹(日立建機)がそれぞれ7位でフィニッシュした。杉浦は2020年1月～2月にカナダで行われたパラ・トラック世界選手権でも女子C3クラスの500mTTで銅メダルを獲得するなど活躍。同大会では男子オムニウムC2クラスで川本翔太が4位と健闘している。また2019年10月に韓国で開催されたパラ・トラックアジア選手権では、個人追い抜き男子Bクラスの木村和平・倉林巧和(楽天ソシオビジネス)と女子Bクラスの山口乃愛(札幌視覚支援学校)・山本さくら(Ciel Bleu鹿屋)がそれぞれに優勝し、女子Cクラス500mTTでも杉浦佳子と藤井美穂(楽天ソシオビジネス)がワンツーフィニッシュするなど好成績が目立ち、日本代表は8種目で勝利した。

JCF INFORMATION 日本自転車競技連盟からのお知らせ

会長就任のご挨拶



この素晴らしい
スポーツにおける
「選手の育成」と
「普及拡大」を
佐久間重光

この度、前会長 橋本聖子の後任として公益財団法人日本自転車競技連盟の会長に就任いたしました、佐久間重光(さくましげみつ)です。さて、本誌掲載のとおり、2月にドイツ・ベルリンで開催されましたUCIトラック世界選手権におきまして、短距離・中距離共にメダルを獲得することができました。

【平成30年度 決算報告】

貸借対照表

資産の部		負債及び正味財産の部	
流動資産	444,963	流動負債	382,956
固定資産	161,918	固定負債	25,182
		負債合計	408,138
		正味財産	198,742
資産合計	606,881	負債・正味財産合計	606,881

平成31年3月31日現在

正味財産増減計算書

科目	金額
一般正味財産増減の部	
経常収益	1,042,851
経常費用	1,126,994
当期経常増減額	-84,142
当期経常外増減額	1,972
当期一般正味財産増減額	-82,170
一般正味財産期末残高	130,659
指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	-54,188
指定正味財産期末残高	68,082
正味財産期末残高	198,742

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

我が国の自転車競技が世界レベルに達し、このような朗報をお知らせできますのも、ひとえに自転車愛するみなさまのご支援の賜物と感謝いたします。本誌の発行が自転車愛するみなさまにとっても日々のサイクリングライフの良い刺激となり、更なる競技力の向上や健康増進に繋がれば幸甚の至ります。



LEGACY OUTBACK X-BREAK



人生を贅沢に愉しむ人へ

明け方の海へ向かって駆ける。思考をクリアにして、自分だけの時間を心から味わう。私にとって、なによりも贅沢を感じる瞬間。
その喜びを、愛すべきかけがえのないパートナーと分かち合う。アウトバック X-BREAK。上質とアクティブが調和した、無二の存在。
このクルマとともに人生を愉しむ。その幸せを、私は知っている。



LEGACY OUTBACK X-BREAK

2.5L DOHC リニアトロニック AWD(常時全輪駆動)
メーカー希望小売価格 3,465,000円(消費税10%込)

PHOTO: マグネタイトグレー・メタリック サンルーフはメーカー装着オプション 写真はすべてイメージです。撮影用の小物は商品には含まれません。ルーフレールに荷物を積載するには別売の専用
アタッチメントが必要です。撥水ファブリックシートは耐水仕様ではありません。撥水効果は永久的なものではありません。撥水シーンはイメージです。●写真は印刷インクの性質上、実際の色とは異なって
見えることがあります。●この仕様はお断りなく変更する場合があります。●詳細は店頭またはWEBでご確認ください。●記載価格はメーカー希望小売価格に消費税10%が含まれた総額表示です。●メーカー
希望小売価格は参考価格です。販売価格は各販売店が独自に決めていますので、それぞれにお問い合わせください。●価格はタイヤパンク修理キットとタイヤ交換工具を含む価格です。●価格には
オプションは含まれておりません。●リサイクル料金、税金(消費税を除く)、保険料、登録等に伴う諸費用等は別途必要となります。●登録等に伴う手続き代行費用については別途消費税が必要となります。



【SUBARU お客様センター】SUBARU コール 0120-052215 受付時間 9:00~17:00(平日)、土日祝は9:00~12:00、13:00~17:00 ※平日の12:00~13:00及び土日祝は各インフォメーションサービスのみとなります。

安心と愉しさを。SUBARU

www.subaru.jp/legacy/outback/